

学部(教養科目、外国語科目、保健体育科目)カリキュラム・マップ

美術工芸学部の目的		広い教養を授け人格の完成に資するとともに、深く専門芸術の理論、技術及びその応用を教授研究し、美術工芸の分野における文化の向上発展に寄与することを目的とする							
大学のディプロマ・ポリシー		1. 本学における教養教育と専門教育を通して、知的活動はもとより社会生活においても必要となるコミュニケーション能力、論理的思考力、情報リテラシーその他汎用的技能を修得した。	2. 美術・工芸・デザイン分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに専門的技術を修得し、自己の創造的活動を歴史及び社会と関連付けて考察・理解できるようになった。	3. 地球社会の平和と共存に資する倫理観と市民としての社会的責任感を備え、未来社会を拓き続けるクリエイターとして不可欠な自律的生涯学習力を培った。	4. 深く芸術の神髄を探究する統合的な学習経験を通して、自らの芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化を担うべく、自ら課題を立てて果敢に取り組む創造的姿勢を育んだ。				
年次	区分		授業名						
	必修	選択							
1	選択	教養科目	哲学Ⅰ	◎					
			哲学Ⅱ	◎					
			文学Ⅰ	◎					
			文学Ⅱ	◎					
			心理学Ⅰ	◎					
			社会学Ⅰ	◎	○				
			社会学Ⅱ	◎			○		
			歴史	◎	○				
			日本国憲法	◎			○		
			人間と文化	◎					
			フレッシュマンセミナー	◎					
			博物館概論	◎			○		
			金沢の文化行政	◎			○		
			キャリアデザイン	◎			○		
2	選択	教養科目	文学Ⅲ	◎					
			文学Ⅳ	◎	○				
			心理学Ⅱ	◎	○				
			文化人類学	◎					
			考古学	◎					
			生涯学習概論	◎			○		
1	選択	B	スポーツ科学	◎					
			物質の科学	◎					
			材料の科学	◎	○				
			科学技術史	◎	○		○		
			情報処理	◎	○				
2	選択	B	エコロジー	◎	○		◎		
			数理科学	◎					
1	選択	外国語科目	英語(一)	◎					
2			英語(二)	◎					
3			英語(三)	◎					
4			英語(四)	◎					
1			フランス語(一)	◎					
2			フランス語(二)	◎					
3			フランス語会話(中級)	◎					
4			フランス語会話(上級)	◎					
2			ドイツ語基礎	◎					
2			イタリア語基礎	◎					
1			必修	保健体育科目	体育実技(一)	◎			○
2					体育実技(二)	◎			○
3					体育実技(三)	◎			○

学部(専門教育科目)カリキュラム・マップ
美術科 日本画専攻

美術工芸学部の目的		広い教養を受け人格の完成に資するとともに、深く専門芸術の理論、技術及びその応用を教授研究し、美術工芸の分野における文化の向上発展に寄与することを目的とする					
大学のディプロマ・ポリシー		1. 本学における教養教育と専門教育を通して、知的活動はもとより社会生活においても必要となるコミュニケーション能力、論理的思考力、情報リテラシーその他汎用的技能を修得した。	2. 美術・工芸・デザインの分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに専門的スキルを修得し、自己の創造的活動を歴史及び社会と関連付けて考察・理解できるようになった。	3. 地球社会の平和と共存に資する倫理観と市民としての社会的責任感を備え、未来社会を拓き続けるクリエイターとして不可欠な自律的生涯学習力を培った。	4. 深く芸術の神髄を探究する統合的な学習経験を通して、自らの芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化を担うべく、自ら課題を立てて果敢に取り組む創造的姿勢を育んだ。		
年次	区分	授業名					
	必修/選択						
1 2 1 2 3 1~4 1 2	必修	基礎科目	映像メディア	◎	○		
			日本美術史 I	○	◎	○	○
			日本美術史 II	○	◎	○	
			美術解剖学	◎	○		
			東洋美術史 I	○	◎	○	○
			東洋美術史 II	○	◎	○	
			西洋美術史 I	○	◎		○
			西洋美術史 II	○	◎		○
			彫刻 I	◎	○		
			彫刻 II	◎	○		
			美学		◎	○	◎
			近代美術史		◎	○	◎
			色彩論	○	◎	○	
			コンピューターグラフィックス	◎	○		
1 2	選択	集中履修科目	工芸技法	◎	○	○	
			現代美術演習	○	◎		○
			デザイン I		◎		○
			デザイン II		◎		○
			デザイン III		◎		○
			工芸 I		◎		○
			工芸 II		◎		○
			工芸 III		◎		○
			工芸 IV		◎		○
			1 2 3 4	必修	専攻科目	日本画(一) I	○
日本画(一) II	○	○					
日本画(二) I	○	○				○	
日本画(二) II	◎	○				○	
日本画(三) I	◎	◎				◎	○
日本画(三) II	◎	◎				◎	○
日本絵画史特講		◎				○	○
日本画(四) I	◎	◎				◎	◎
日本画(四) II	◎	◎				◎	◎

学部(専門教育科目)カリキュラム・マップ

美術科 油画専攻

美術工芸学部の目的			広い教養を授け人格の完成に資するとともに、深く専門芸術の理論、技術及びその応用を教授研究し、美術工芸の分野における文化の向上発展に寄与することを目的とする				
大学のディプロマ・ポリシー			1. 本学における教養教育と専門教育を通して、知的活動はもとより社会生活においても必要となるコミュニケーション能力、論理的思考力、情報リテラシーその他汎用的技能を修得した。	2. 美術・工芸・デザインの分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに専門的技能を修得し、自己の創造的活動を歴史及び社会と関連付けて考察・理解できるようになった。	3. 地球社会の平和と共存に資する倫理観と市民としての社会的責任感を備え、未来社会を拓き続けるクリエイターとして不可欠な自律的生涯学習力を培った。	4. 深く芸術の神髄を探究する統合的な学習経験を通して、自らの芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化を担うべく、自ら課題を立てて果敢に取り組む創造的姿勢を育んだ。	
年次	区分		授業名				
	必修/選択						
1 2 1 2 3	必修	基礎科目	映像メディア	◎	○		
			日本美術史 I	○	◎	○	○
			日本美術史 II	○	◎	○	
			美術解剖学	◎	○		
			東洋美術史 I	○	◎	○	○
			東洋美術史 II	○	◎	○	
			西洋美術史 I	○	◎		○
			西洋美術史 II	○	◎		○
			彫刻 I	◎	○		
			彫刻 II	◎	○		
			美学		◎	○	◎
			近代美術史		◎	○	◎
			色彩論	○	◎	○	
			コンピュータグラフィックス	◎	○		
1 2	選択	集中履修科目	デザイン I		◎		○
			デザイン II		◎		○
			デザイン III		◎		○
			工芸 I		◎		○
			工芸 II		◎		○
			工芸 III		◎		○
			工芸 IV		◎		○
			油絵(一) I		◎		○
1 2	必修	専攻科目	油絵(一) II		◎		○
			油絵(二) I		◎		○
2 3	必修	専攻科目	油絵(二) II		◎		○
			版画 I		◎		
3 4	必修	専攻科目	油絵(三) I		○		◎
			油絵(三) II		○		◎
3 4	必修	専攻科目	版画 II		○		◎
			西洋絵画史特講	◎		○	
4	必修	専攻科目	油絵(四) I		○		◎
			油絵(四) II		○		◎

学部(専門教育科目)カリキュラム・マップ

美術科 彫刻専攻

美術工芸学部の目的			広い教養を受け人格の完成に資するとともに、深く専門芸術の理論、技術及びその応用を教授研究し、美術工芸の分野における文化の向上発展に寄与することを目的とする				
大学のディプロマ・ポリシー			1. 本学における教養教育と専門教育を通して、知的活動はもとより社会生活においても必要となるコミュニケーション能力、論理的思考力、情報リテラシーその他汎用的技能を修得した。	2. 美術・工芸・デザインの分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに専門的技能を修得し、自己の創造的活動を歴史及び社会と関連付けて考察・理解できるようになった。	3. 地球社会の平和と共存に資する倫理観と市民としての社会的責任感を備え、未来社会を拓き続けるクリエイターとして不可欠な自律的生涯学習力を培った。	4. 深く芸術の神髄を探究する統合的な学習経験を通して、自らの芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化を担うべく、自ら課題を立てて果敢に取り組む創造的姿勢を育んだ。	
年次	区分		授業名				
	必修/選択						
1 2 1 2 3	必修	基礎科目	映像メディア	◎	○		
			日本美術史 I	○	◎	○	○
			日本美術史 II	○	◎	○	
			美術解剖学	◎	○		
			東洋美術史 I	○	◎	○	○
			東洋美術史 II	○	◎	○	
			西洋美術史 I	○	◎		○
			西洋美術史 II	○	◎		○
			絵画 I		◎		○
			絵画 II	◎		○	
			美学		◎	○	◎
			近代美術史		◎	○	◎
			色彩論	○	◎	○	
			コンピューターグラフィックス	◎	○		
1 2	選択	集中履修科目	デザイン I		◎		○
			デザイン II		◎		○
			デザイン III		◎		○
			工芸 I		◎		○
			工芸 II		◎		○
			工芸 III		◎		○
			工芸 IV		◎		○
					◎		○
1 2 3 4	必修	専攻科目	彫刻(一) I	◎	◎	○	
			彫刻(一) II	◎	◎	○	
			彫刻(二) I	◎	◎	○	
			彫刻(二) II	◎	◎	○	
			彫刻論 I	◎	◎	○	
			彫刻(三) I	○	◎	◎	○
			彫刻(三) II	○	◎	◎	○
			彫刻論 II	○	◎	◎	
			彫刻史特講	○	◎	○	
			彫刻(四) I	○	◎	◎	◎
			彫刻(四) II	○	◎	◎	◎

学部(専門教育科目)カリキュラム・マップ
美術科 芸術学専攻

美術工芸学部の目的			広い教養を受け人格の完成に資するとともに、深く専門芸術の理論、技術及びその応用を教授研究し、美術工芸の分野における文化の向上発展に寄与することを目的とする						
大学のディプロマ・ポリシー			1. 本学における教養教育と専門教育を通して、知的活動はもとより社会生活においても必要となるコミュニケーション能力、論理的思考力、情報リテラシーその他汎用的技能を修得した。	2. 美術・工芸・デザインの分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに専門的スキルを修得し、自己の創造的活動を歴史及び社会と関連付けて考察・理解できるようになった。	3. 地球社会の平和と共存に資する倫理観と市民としての社会的責任感を備え、未来社会を拓き続けるクリエイターとして不可欠な自律的生涯学習力を培った。	4. 深く芸術の神髄を探究する統合的な学習経験を通して、自らの芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化を担うべく、自ら課題を立てて果敢に取り組む創造的姿勢を育んだ。			
年次	区分		授業名						
	必修/選択								
1	必修	基礎科目	映像メディア	◎	○				
			日本美術史 I	○	◎	○	○		
日本美術史 II			○	◎	○	○			
東洋美術史 I			○	◎	○	○			
東洋美術史 II			○	◎	○	○			
西洋美術史 I			○	◎		○			
西洋美術史 II			○	◎		○			
2			必修	基礎科目	版画		◎		○
1					美学		◎	○	◎
2					工芸史 I		◎	○	○
	工芸史 II				◎	○	○		
3	近代美術史				◎	○	◎		
	美術工芸特論	○			◎	○	◎		
	コンピューターグラフィックス	◎			○				
1	選択	集中履修科目			絵画 I	◎	◎	○	
					絵画 III	◎	◎	○	
					デザイン I		◎		○
			デザイン II		◎		○		
			デザイン III		◎		○		
			2	工芸 I		◎		○	
				工芸 II		◎		○	
			2	工芸 III		◎		○	
工芸 IV		◎			○				
1	必修	専攻科目	芸術学演習(一)	◎	◎	◎	◎		
			芸術学概論		◎		○		
工芸演習			◎	○		◎			
彫刻演習			◎	○		◎			
2			芸術学演習(二)	○	◎		◎		
			芸術学特講	◎	◎	◎	◎		
3			選択	専攻科目	美術表現演習	◎	◎	◎	◎
					絵画演習	◎	○		◎
					芸術学演習(三)	◎	◎	◎	◎
					芸術論研究	○	◎		◎
	専門語学(英語)	◎				○			
	専門語学(フランス語)	◎				○			
	専門語学(ドイツ語)	◎				○			
	専門語学(イタリア語)	◎				○			
	専門語学(中国語)	◎				○			
	専門語学(ハンガール)	◎				○			
3	必修	専攻科目	日本絵画史特講		◎	○	○		
			西洋絵画史特講	○	◎	○	◎		
4	必修	専攻科目	彫刻史特講	○	◎	○			
			芸術学演習(四)	○	◎	◎	◎		
			卒業研究	○	◎	◎	◎		

学部(専門教育科目)カリキュラム・マップ
デザイン科 視覚デザイン専攻

美術工芸学部の目的			広い教養を受け人格の完成に資するとともに、深く専門芸術の理論、技術及びその応用を教授研究し、美術工芸の分野における文化の向上発展に寄与することを目的とする				
大学のディプロマ・ポリシー			1. 本学における教養教育と専門教育を通して、知的活動はもとより社会生活においても必要となるコミュニケーション能力、論理的思考力、情報リテラシーその他汎用的技能を修得した。	2. 美術・工芸・デザインの分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに専門的スキルを修得し、自己の創造的活動を歴史及び社会と関連付けて考察・理解できるようになった。	3. 地球社会の平和と共存に資する倫理観と市民としての社会的責任感を備え、未来社会を拓き続けるクリエイターとして不可欠な自律的生涯学習力を培った。	4. 深く芸術の神髄を探究する統合的な学習経験を通して、自らの芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化を担うべく、自ら課題を立てて果敢に取り組む創造的姿勢を育んだ。	
年次	区分		授業名				
	必修/選択						
1	必修	基礎科目	映像メディア	◎	○		
			日本美術史 I	○	◎	○	○
東洋美術史 I			○	◎	○	○	
西洋美術史 I			○	◎		○	
メディアアート			◎	◎		○	
2	必修	基礎科目	色彩論	○	◎	○	
			造形心理学	◎	○	◎	○
4	必修	基礎科目	専門英語演習	◎	○	◎	○
1			選択必修	基礎科目	絵画 I	◎	◎
2	選択	集中履修科目			絵画 II	◎	◎
			絵画 III	◎	◎	○	
2	選択	集中履修科目	彫刻 I	◎	◎		
			彫刻 II	◎	◎		
2	選択	集中履修科目	工芸 I		◎		○
			工芸 II		◎		○
2	選択	集中履修科目	工芸 III		◎		○
			工芸 IV		◎		○
1	必修	専攻科目	視覚デザイン演習(一)	○	◎		
			形態演習	○	◎		
描出演習			○	◎			
色彩演習			○	◎			
材料学演習(石膏)			○	◎			
材料学演習(プラスチック)			○	◎		○	
立体図法			◎	◎	○		
形態論			○	◎	○	◎	
視覚デザイン演習(二)			○	◎	○		
コンピュータ演習			○	◎		◎	
2	必修	専攻科目	デザインプロセス演習	○	◎	○	◎
			印刷演習	○	◎		◎
2	必修	専攻科目	照明論	○	◎		○
			映像演習		◎		
2	必修	専攻科目	近代デザイン演習	○	○	○	◎
			視覚デザイン演習(三)	◎		○	○
3	必修	専攻科目	人間工学	◎	◎	○	◎
			展示計画論	○	◎	○	
3	必修	専攻科目	デザインマーケティング	○	○	◎	
			広告演習		◎	○	
3	必修	専攻科目	画像処理演習	◎	◎		
			パッケージ演習	○	◎	○	
4	必修	専攻科目	視覚デザイン演習(四)	○	◎	○	◎
			意匠法規	◎	◎	○	
4	必修	専攻科目	卒業制作	○	◎	○	◎

学部(専門教育科目)カリキュラム・マップ
デザイン科 製品デザイン専攻

美術工芸学部の目的			広い教養を授け人格の完成に資するとともに、深く専門芸術の理論、技術及びその応用を教授研究し、美術工芸の分野における文化の向上発展に寄与することを目的とする				
大学のディプロマ・ポリシー			1. 本学における教養教育と専門教育を通して、知的活動はもとより社会生活においても必要となるコミュニケーション能力、論理的思考力、情報リテラシーその他汎用的技能を修得した。	2. 美術・工芸・デザインの分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに専門的スキルを修得し、自己の創造的活動を歴史及び社会と関連付けて考察・理解できるようになった。	3. 地球社会の平和と共存に資する倫理観と市民としての社会的責任感を備え、未来社会を拓き続けるクリエイターとして不可欠な自律的生涯学習力を培った。	4. 深く芸術の神髄を探究する統合的な学習経験を通して、自らの芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化を担うべく、自ら課題を立てて果敢に取り組む創造的姿勢を育んだ。	
年次	区分		授業名				
	必修/選択						
1 2 4 1 2	必修 選択	基礎科目 集中履修科目	映像メディア	◎	○		
			日本美術史 I	○	◎	○	○
			東洋美術史 I	○	◎	○	○
			西洋美術史 I	○	◎	○	○
			色彩論	○	◎	○	
			環境心理学	◎	◎		○
			建築論	○	◎	○	
			専門英語演習	◎	○	◎	○
			絵画 I	◎	◎	○	
			絵画 II	◎	◎	○	
			絵画 III	◎	◎	○	
			彫刻 I	◎	◎		
			彫刻 II	◎	◎		
			工芸 I		◎		○
工芸 II		◎		○			
工芸 III		◎		○			
工芸 IV		◎		○			
1 2 3 4	必修	専攻科目	製品デザイン演習(一)	○	◎	◎	○
			形態演習	◎	◎	○	
			描出演習	◎	◎	○	
			色彩演習	◎	◎	○	
			材料学演習(石膏)	○	◎		
			材料学演習(プラスチック)	○	◎		
			材料学演習(塗料)	○	◎		
			材料学演習(木材)	○	◎		
			材料学演習(金属)	○	◎		
			立体図法	○	◎		
			写真演習	◎	◎	○	
			形態論	◎	◎	○	
			製品デザイン演習(二)	◎	◎	◎	◎
			コンピュータ演習 I	○	◎	○	
			インターフェイスデザイン	◎	◎	○	○
			デザインプロセス演習	◎	◎	◎	◎
			照明論	○	◎		○
			機械製図法	○	◎	○	
			家具意匠論	○	◎	○	
			近代デザイン論	◎		○	
製品デザイン演習(三)	◎	◎	◎	◎			
コンピュータ演習 II	○	◎	○				
人間工学	◎	◎	◎	◎			
デザイン工学	◎	◎	◎	◎			
製品計画論	◎	◎	◎	◎			
製品デザイン演習(四)	◎	◎	◎	◎			
デザインマーケティング	◎	◎	○	◎			
製品デザイン特論	◎	◎	◎	◎			
意匠法規	◎	◎	◎				
卒業制作	◎	◎	◎	◎			

学部(専門教育科目)カリキュラム・マップ
デザイン科 環境デザイン専攻

美術工芸学部の目的			広い教養を受け人格の完成に資するとともに、深く専門芸術の理論、技術及びその応用を教授研究し、美術工芸の分野における文化の向上発展に寄与することを目的とする				
大学のディプロマ・ポリシー			1. 本学における教養教育と専門教育を通して、知的活動はもとより社会生活においても必要となるコミュニケーション能力、論理的思考力、情報リテラシーその他汎用的技能を修得した。	2. 美術・工芸・デザインの分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに専門的技術を修得し、自己の創造的活動を歴史及び社会と関連付けて考察・理解できるようになった。	3. 地球社会の平和と共存に資する倫理観と市民としての社会的責任感を備え、未来社会を拓き続けるクリエイターとして不可欠な自律的生涯学習力を培った。	4. 深く芸術の神髄を探究する統合的な学習経験を通して、自らの芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化を担うべく、自ら課題を立てて果敢に取り組む創造的姿勢を育んだ。	
年次	区分		授業名				
	必修/選択						
1	必修	基礎科目	映像メディア	◎	○		
			日本美術史 I	○	◎	○	○
			東洋美術史 I	○	◎	○	○
			西洋美術史 I	○	◎		○
2	必修	基礎科目	色彩論	○	◎	○	
			環境心理学	◎	◎		○
4	必修	基礎科目	建築論	○	◎	○	
			専門英語演習	◎	○	◎	○
1	選択	集中履修科目	絵画 I	◎	◎	○	
			絵画 III	◎	◎	○	
			彫刻 I	◎	◎		
			彫刻 II	◎	◎		
			工芸 I		◎		○
			工芸 II		◎		○
			工芸 III		◎		○
			工芸 IV		◎		○
1	必修	専攻科目	環境デザイン演習(一)	○	○	○	
			形態演習	○	○	○	
			描出演習		◎		
			色彩演習	○	◎		
			建築史 I	○	◎	○	
			材料学演習(石膏)	○	◎		
			材料学演習(プラスチック)	○	◎		○
			材料学演習(木材)		◎		○
			環境デザイン工学 I	○	○	○	
			環境デザイン工学 II	○	○	○	
			立体図法	◎	◎	○	
			形態論	○	◎	○	◎
			環境デザイン演習(二)	◎	◎	◎	◎
			建築史 II	○	◎	○	
			デザインプロセス演習	◎	◎	○	
			コンピュータ演習	○	◎		◎
家具意匠論	○	◎	○				
建築製図法	○	○	○				
照明論		◎		○			
近代デザイン論	◎		○				
2	必修	専攻科目	環境デザイン演習(三)	◎	◎	○	○
			人間工学	◎		◎	◎
			景観論		◎	◎	
			地域空間論 I	◎	◎	◎	◎
			展示計画論	○	◎	○	
3	必修	専攻科目	室内計画論	○	◎	○	
			映像演習		◎		○
			環境デザイン特論	◎	◎		◎
			製品デザイン演習(四)	◎	◎	○	
4	必修	専攻科目	環境造形計画論		◎	◎	
			建築法規	○	○	○	
			地域空間論 II	◎	◎	◎	◎
			卒業制作	◎	◎		◎

学部(専門教育科目)カリキュラム・マップ
工芸科

美術工芸学部の目的		広い教養を授け人格の完成に資するとともに、深く専門芸術の理論、技術及びその応用を教授研究し、美術工芸の分野における文化の向上発展に寄与することを目的とする					
大学のディプロマ・ポリシー		1. 本学における教養教育と専門教育を通して、知的活動はもとより社会生活においても必要となるコミュニケーション能力、論理的思考力、情報リテラシーその他汎用的技能を修得した。	2. 美術・工芸・デザインの分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに専門的技術を修得し、自己の創造的活動を歴史及び社会と関連付けて考察・理解できるようになった。	3. 地球社会の平和と共存に資する倫理観と市民としての社会的責任感を備え、未来社会を拓き続けるクリエイターとして不可欠な自律的生涯学習力を培った。	4. 深く芸術の神髄を探究する統合的な学習経験を通して、自らの芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化を担うべく、自ら課題を立てて果敢に取り組む創造的姿勢を育んだ。		
年次	区分		授業名				
	必修/選択						
1	必修	基礎科目	映像メディア	◎	◎		
			日本美術史 I	◎	◎	○	○
			東洋美術史 I	◎	◎	○	○
			西洋美術史 I	◎	◎		○
			図学	◎	◎		○
			工芸史 I	◎	◎	○	○
			コンピュータグラフィックス	◎	○		
2	必修	基礎科目	専門英語演習	◎			○
			2	選択	集中履修科目	絵画 I	◎
絵画 III	◎	◎	○				
彫刻 I	◎	◎					
彫刻 II	◎	◎					
デザイン I		◎				○	
デザイン II		◎				○	
デザイン III		◎				○	
1	必修	専攻科目	工芸演習(一)A		◎		○
			工芸演習(一)B		◎		○
			描出演習		◎		○
			形態演習		◎		○
			色彩演習	○	◎		○
			材料学演習(石膏)		◎		○
			コンピュータ演習 I	◎	○		○
			デザインプロセス	○	◎		○
			伝統文化論A	○		◎	
			伝統文化論B	○		◎	
			工芸概論A		◎		○
			工芸概論B		◎		○
			工芸演習(二)染織		◎		○
			工芸演習(二)染織		◎		○
工芸演習(二)漆・木工		◎		○			
工芸演習(二)漆・木工		◎		○			
工芸演習(二)金工		◎		○			
工芸演習(二)金工		◎		○			
工芸演習(二)陶磁		◎		○			
工芸演習(二)陶磁		◎		○			
2	選択	専攻科目	デザイン演習 I	○	◎		○
			古美術演習	○	◎		○
			現代工芸論 I	○	◎		○
			地域工芸演習 I (社会研究)	○	◎	○	○
			工芸演習(三)染織		◎		○
	工芸演習(三)染織			◎		○	
	工芸演習(三)漆・木工			◎		○	
	工芸演習(三)漆・木工			◎		○	
	工芸演習(三)金工			◎		○	
	工芸演習(三)金工			◎		○	
工芸演習(三)陶磁		◎		○			
工芸演習(三)陶磁		◎		○			
3	選択	専攻科目	現代工芸論 II	○	◎	○	○
			コンピュータ演習 II	○	◎		○
			デザイン演習 II	○	◎		○
	地域工芸演習 II (産地研修)		○	◎	○	○	
	複合素材演習			◎		◎	
	工芸演習(四)染織			◎		○	
	工芸演習(四)染織			◎		○	
工芸演習(四)漆・木工			◎		○		
工芸演習(四)漆・木工			◎		○		
工芸演習(四)金工			◎		○		
工芸演習(四)金工		◎		○			
工芸演習(四)陶磁		◎		○			
工芸演習(四)陶磁		◎		○			
4	選択	専攻科目	工芸演習(四)陶磁		◎		○